養豚への DNA 技術の応用

1 豚肉の自社産証明（トレーサビリティ）

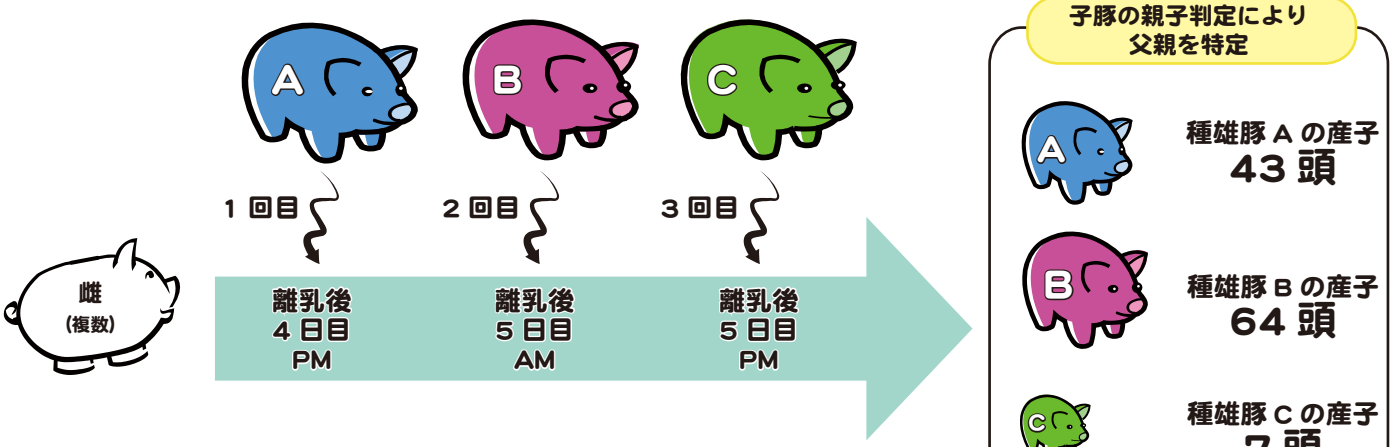
親子判定技術を応用して、自社利用種雄豚の DNA 型を登録することにより、豚肉のトレーサビリティが可能です。

～　自社産証明方法　～

自社で利用している種雄豚集団について、DNA 型を検査してデータベースに登録。食肉センター・小売店・飲食店等の豚肉サンプルの DNA 型を調べることで、自社産証明（トレーサビリティ）が可能です。

2 養豚場における授精適期の推定

雌への種付けは 1 発情に 3 回が一般的です。これは、雌の発情時間の長さには個体によるばらつきがあり、受精の適期を特定することが難しいといわれています。それぞれの雌豚の授精適期が分かれば、雌ごとにあわせた授精や交配・授精回数の削減による生産性・経済性の向上を図ることができます。



※農場により差があります

～　授精適期の推定方法　～

3 回の AI について、違う種豚を用います。生まれた産子と種雄豚の親子判定をすることで、それぞれのタイミングの産子数から授精適期を推定することができます。